

介護支援専門員実務研修実習受入に関するアンケート実施結果について

【調査目的】 介護支援専門員実務研修における実習の受入れに関し、コロナ禍での実習の実情を明らかにする。また、感染対策に配慮し、ガイドラインを踏まえた効果的な実習の実施方法等の共通認識を図ることにより、実習の質の確保と効果的・効率的な実習の展開を促す。

【調査実施時期】 令和4年6月1日～6月30日

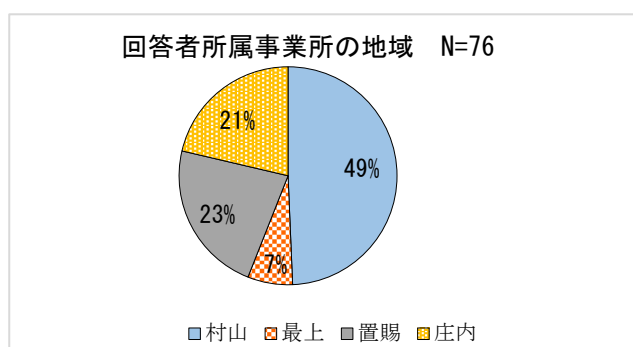
【実施方法】 web 回答方式（やまがた e 申請によるアンケート調査を行った。）

【調査対象】 介護支援専門員実務研修実習受け入れ事業所（令和3年度に実習生を受け入れた事業所として登録している事業所）で実習生の指導を行った者（以下、指導者とする。）、114名だった。そのうち回答者は76名、回答率は66.6%だった。

【調査結果】

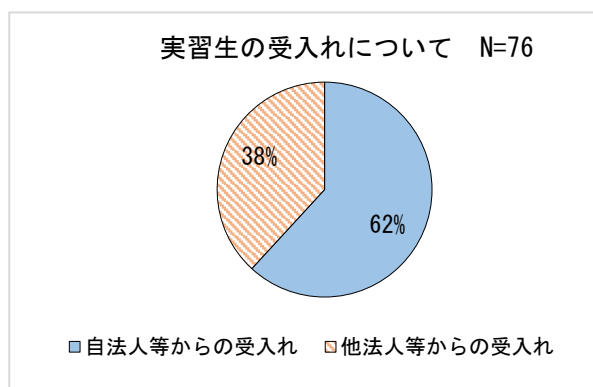
1. 回答者所属事業所の地域

地域	数
村山	37
最上	5
置賜	17
庄内	16



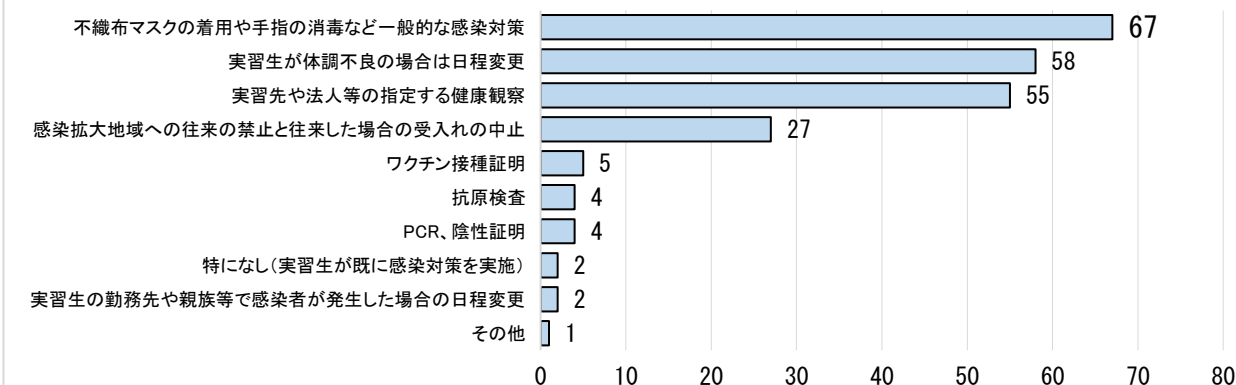
2. 実習生受け入れについて

自法人等からの受入れ	47
他法人等からの受入れ	29



- ・ R3 年度は新型コロナの影響で、感染対策の違い等があるため、自法人でのマッチングを基本としている。
- ・ 回答者の 6 割が自法人からの受入れだったと回答している。

実習生に対し実習前、実習中にコロナ対策等で依頼したこと（複数回答）

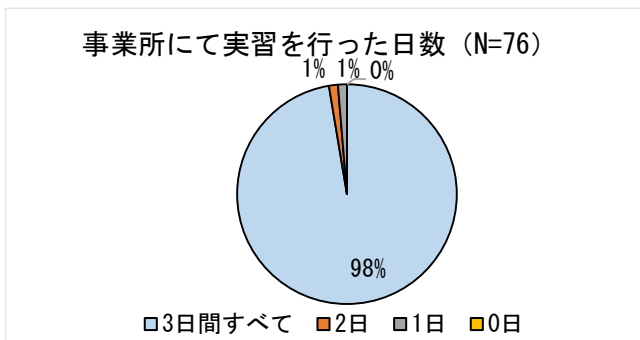


- ・ 不織布マスクの着用や手指の消毒などについては、ほとんどの事業所が実習生に依頼していた。

- ・また、体調不良の際の日程変更や健康観察については7割以上の事業所で依頼をしていた。
- ・感染拡大地域との往来禁止は35.5%、ワクチン証明やPCR、抗原検査等まで求めた事業所は5～6%だった。
- ・実習生が医療系の資格を所持しており、既に感染対策は実施できているとし、特に感染対策を求めない事業所もあった。
- ・その他は実習生の勤務先や家族の利用施設でコロナの患者が発生した場合は、再度日程調整を行うというものだった。

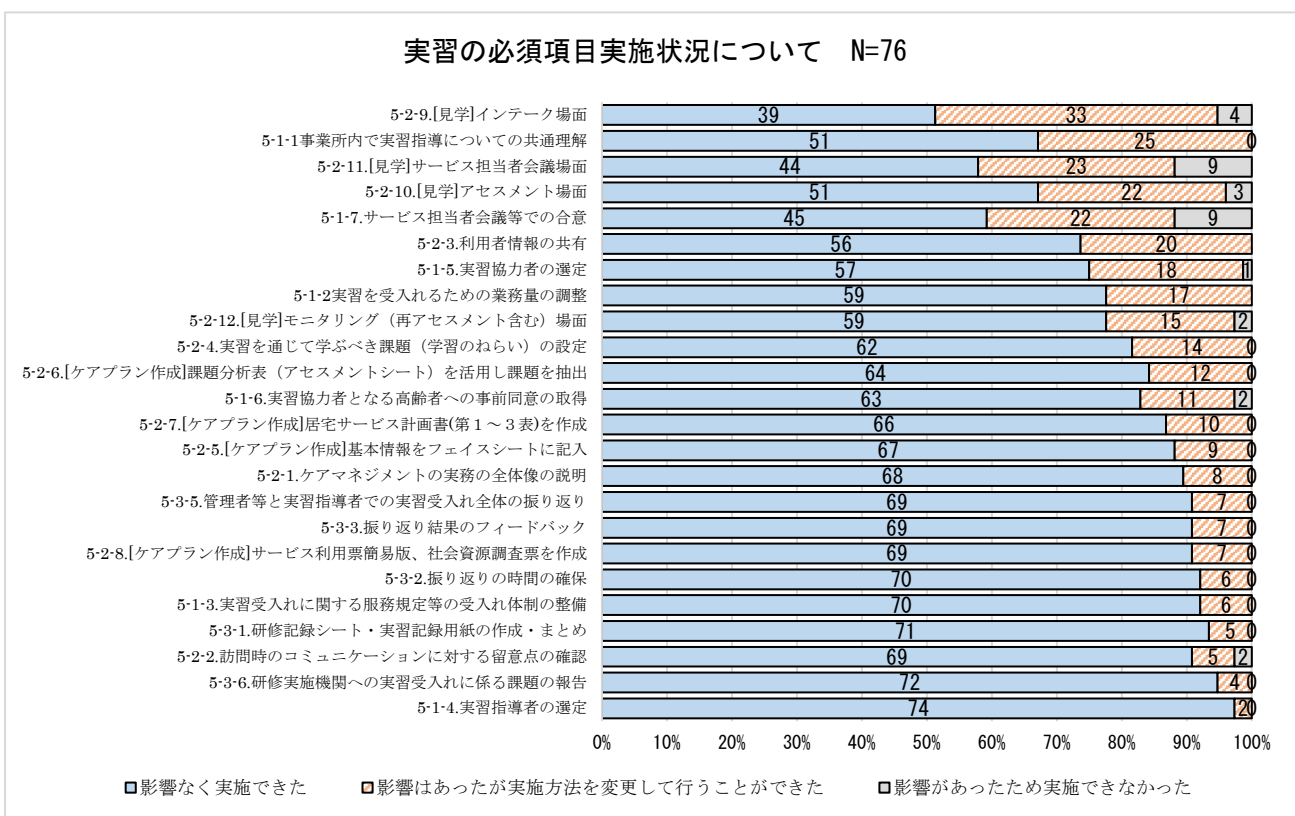
3. 事業所での実習日数について

日数	数
3日間すべて	74
2日	1
1日	1
0日	0



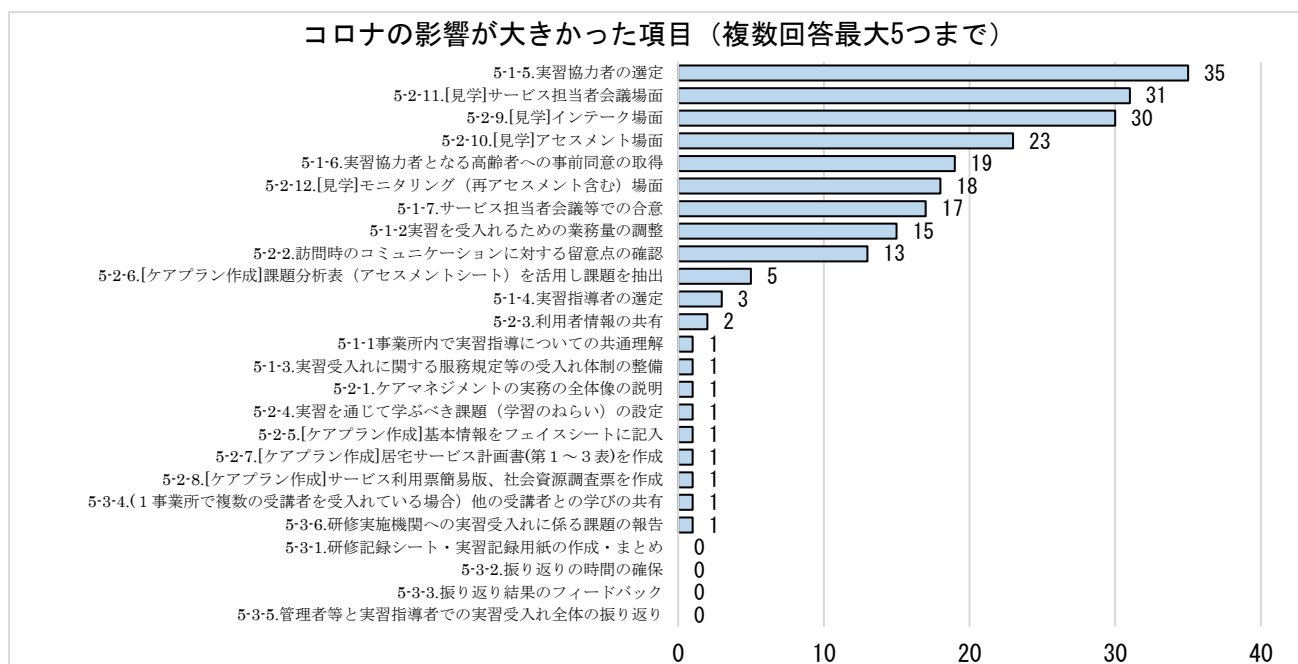
- ・ほとんどの実習生がコロナの影響はあるものの、3日間、事業所にて実習うことができていた。

4. 実習の必須項目の実施状況について



- ・必須項目については、ほぼ、「影響なく実施できた」「方法等変更する等して実施できた」と回答している。[見学]に関する部分は方法を変更して実施されていることが多かった。

5. コロナの影響が特に大きかった項目（複数回答、5つまで）



・利用者に関わる部分が影響が大きかったと回答している数が多い状況だった。

実習の必須項目で「方法等変更して実施した」もしくは「コロナの影響で実施できなかった」と回答した場合の自由記載及び工夫して指導に尽力いただいた点（抜粋）

【実習全体】

- ・実習生の勤務先、指導者の家族の利用施設でコロナ患者が発生や利用者家族の県外往来等あり、日程調整を行った。（同様の状況、取り組み多数）
- ・訪問等は感染対策（マスク、換気、密にならない等）実施した上で短時間で終わらせるようにした。（同様の取組多数）
- ・実習協力者宅に向いて対応することが出来なかった。その為、オンラインで本人の状態像を伝えて対応した。（同様の取組複数）
- ・そのため、[見学]に関してはPCで該当する動画を視聴し、視聴後に補足説明をするなどして代替方法をした。
- ・利用者との面談が必要な事項については、市内で感染拡大が急増している時期であったため、急遽オンラインで実施した。
- ・3日間のうち事業所での実習は1日で、2日間はオンラインでの実習とした。
- ・事前に、アセスメントに必要な内容を話し合い、前半と後半に分けて自習してもらうこととした。訪問できない分、ケアマネジメントの流れを事例を通し説明した。
- ・訪問等に長い時間をかけることは難しかったことから、事前にある程度の情報提供が必要だった。
- ・実習生の勤務先でコロナ患者が発生し、予定していた日程を変更し、フェイスシート、アセスメントシート、ケアプラン作成に関して、何度も電話でやり取りしながら作成した日が1日間あったため、振り返りの時間を電話で行った。

・実習生の使用する場所を別に確保していたが、必要時以上に実習指導者もその部屋に入ることは控えた。なるべく短時間での関わりとしたため、3日間実習の中では一人での作業時間が多かったと思う。

・事前に資料を別で作成し、動画等を活用後、電話やメール等によりやり取りを実施した

・実習生受け入れ後に、法人としてのコロナ禍での実習生受け入れ条件についてまとめ書面におとした。

・実習1日目経過以降に実習者自身が新型コロナウイルスに感染し、自宅療養となった。体調は大きく低下されることはなかったものの、自宅から出ることができず、且つ実習生の自宅にFAXやスキャナーなどの機器もなかったため、作成いただいた資料によっては、自宅待機期間が終わってからの郵送やFAX、メール添付で提出いただき、それをこちらで確認の上電話での指導を行う、など療養状況や指導内容に応じた方法で実施した。

・実習者には、事前にアセスメント等の説明を行い、聞き取りしたい部分を事前に準備して頂きスムーズに実習を行うことができた。

・実習指導内容において、ケアプラン作成業務、モニタリング場面において、指導者が作成した資料を配布の下、電話で指導を行った。

・ケアマネジメントの流れとして、特徴の違う事例（病院退院時（終末期）、一人暮らし、認知症の方）の一連の流れを説明した。

・コロナ禍故に、マスクで表情が読み取れない、相手の声が聞き取りにくい等、疎通のしづらさがある。そのため、訪問前にシュミレーションし「なぜその質問をするのか」質問の意図の明確化、言語化の重要性を説明した。

・事業所で、居宅サービス計画書の作成作業を別室で行っていただいたが、すぐそこで、適宜説明をすることが出来実習生と確認しあう時間は確保するように努めた。

【指導者の業務調整】

・指導者の家族の利用施設でコロナ患者が発生し、別の指導者に変更を行った。

・実習生の家族の通所施設でコロナが発生し、念のため日程調整を行った。

・同法人の受講者であったため実習日程と研修終了後地域でのコロナが落ち着いたのちに同行訪問して学習していただいた。

【実習協力者の選定】

・感染状況や、受け入れ先での協力を得る際に、今まで以上に、説明を重ねて同意を得た。説明することで、利用者さまや、ご家族に気持ちよく対応していただけて、より良い実習となった。

・実習協力者の選定を終えていたが、実習協力者の関係者からコロナの濃厚接触者が出たことで実習直前になってから協力者の選定をし直した。（同様の状況については複数あり）

・訪問前に協力者及びご家族に感染対策予防の徹底（アルコール消毒や事前の体温のお知らせ）や訪問滞在時間の厳守を協議し取り組んだ。

・実習協力者となる方への事前訪問同意について、実習生の勤務先のコロナ対応の内容について説明の上、同意していただいた。

・担当者会議も複数の事業所が集まらないようなケースを選定した。

【社会資源調査】

・社会資源調査票の作成では、地域の社会資源として通所サービスなどを見学していたが、今回は訪問せずに通所サービスでボランティア活動をしている方に来所していただき話しを聞く機会を作った。

【インテーク】

- ・照会元からの情報提供書類をもとに初回訪問方法などについて指導をおこなった。
- ・実習協力者宅への訪問はできなかったが、事業所内で模擬でインテークの場면을再現し観てもらった。（同様の取組複数あり）
- ・利用者の方から少人数での依頼があったためインテークの訪問ができなかった。

【サービス担当者会議】

- ・担当者会議日程調整の段階で、サービス提供事業所でコロナ陽性者が出てしまい、照会での処理となった。そのため、担当者会議の流れなどについて、開催資料をもとに進行方法や留意点・目的などについて指導をおこなった。（同様の取組複数あり）
- ・担当者会議等大人数が集まるような場面では自事業所の併設の事業所の参加が出来る利用者を選定し、事業所は1名の参加にし、実習の見学の場面とした。
- ・サービス担当者会議が病院側との開催だったこともあり、感染対策としてオンライン開催を行うことで実施できた。
- ・参加者が多数となったので、広い部屋を用意していただいたり、換気に気を遣っていただいたり、利用者家族よりご理解・ご協力を得ながら実施した。
- ・事業所内のケアマネの協力を得、模擬サービス担当者会議を開催し見学してもらった。（同様の取組複数あり）

【アセスメント】

- ・コロナで訪問は遠慮してほしいとの申し出があり、カルテや口頭での情報提供を行い、不足分を電話で利用者から直接聞き取ってもらうなどの方法で情報収集、アセスメントを行ってもらった。（同様の取組複数）
- ・アセスメント・モニタリングなどは、法人内のサービスを利用時に本人への挨拶を行ったり、サービスの利用状況などを職員への聞き取りへ変更したりした。
- ・アセスメントを作成する為にはインテークはどのようにしているのか、家族との対応はどのようにしているのかを伝えた後に対象者のイメージをつかんでもらいながら対応した。
- ・同法人内のサービスを利用されている方のため、インテークやアセスメントの際には直接サービス事業所へ出向くことで、数分程度の面接を行わせていただけるよう事業所へ依頼することができた。

【モニタリング】

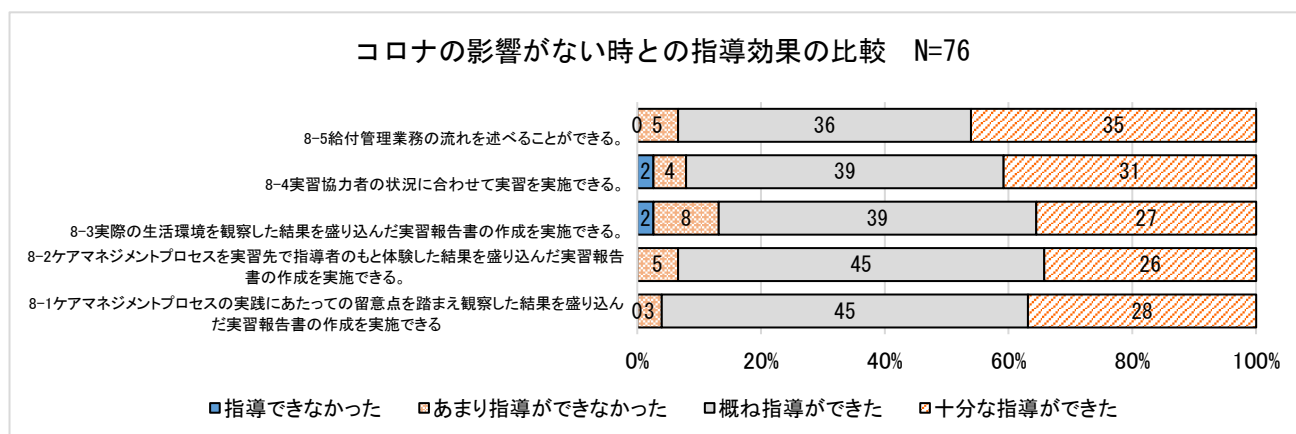
- ・モニタリングが、コロナの影響で断られた為、事例を通しての検討会に変更した。
- ・モニタリングの見学は、ケアプラン作成時のアセスメント後に行うことで利用者本人の負担などの軽減を図った。同時に見学の指導ができるように調整することでケアマネ自身の業務負担も軽減できると考えられる。

【その他】

- ・模擬ケアプラン作成（利用者宅訪問）とサービス担当者会議の見学は、コロナ感染対策をした上で、実習生同席の説明、同意を得た上で、例年通り開催することができた。
- ・模擬プランの作成指導に関しては、勤務先が近かった為、お互いの勤務先のポストに届けた。
- ・全体的にコロナの影響はなく実習先の利用者の選定や、感染予防対策を徹底し実施できた。
- ・同一法人内の研修ということでコロナ対策に関して共通理解を持ったまま取り組み、円滑な実習内容となりました。実習生自身も学びに対する意識が高く指導者だけではなく事業所全体の意識向上に繋がる良い3日間だと感じた。

・お互いの感染対策のため、オンラインや電話等を活用していた事例や、訪問や利用者対面での実習等ができない代わりに、模擬でのサービス担当者を開催するなど、より実習効果を高める取り組みなどもあった。

6. 実習の修得目標に対する指導効果に関するコロナの影響がない時との比較



概ね9割程度の指導者が、修得目標に対し、概ね指導できた、十分指導できたと回答している。

7. 実習効果を高めるための効果的な取り組み、意見等(抜粋)

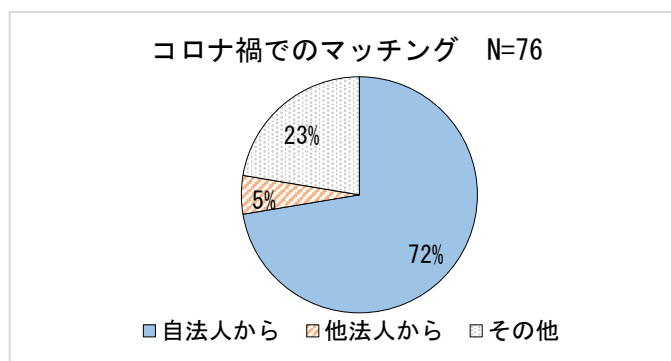
- ・感染対策としてオンラインの活用は大変有効と思われる。
- ・職員が演じてインテークの場面を再現できたことは説明を聞くだけよりは効果があった。コロナ禍の為オンラインでの実習になってしまったことは残念であった。
- ・訪問時間の制限があったが、その分事務所内の時間を十分持てたことから丁寧な説明ができた。また実習生の理解度を確認しながら進めることができた。見学や訪問が叶わないこともあったため、資料等準備に手間を割いたことから事前の準備に時間を要した。
- ・事前説明や訪問後のフィードバック（振り返り）の時間を長めに取ることで、実習生の意向やどこまで理解できたか、どんな気づきを得られたかを確認することができたように感じる。
- ・今回の実習ではオンラインで指導することは考えていませんでしたが、今後も同様の状況が続くのであれば3日間のなかで部分的にオンラインを活用することも実習依頼の際に提案してもらえると取り組みやすいのではないかと感じた。

- ・今回、現場に実習に来て、主任ケアマネから直接話を聞いたことや質問ができたことなど、有意義な様子だった。
- ・コロナ禍でなくても、3日間全て同行訪問が組めるわけではないので、事務所での自己学習や記録作成の時間を確保していました。今回、その時間を自宅で行っていただいた日もありました。利用者宅だけではなく、事務所での他の職員との接触、感染のリスクを少しでも低くするためには、実習生の意識さえしっかりしていれば問題ないように感じました。
- ・事前の日程調整がうまくいったことで、ほぼ計画通りに実習できたことが目標達成に繋がったのではないかと。（地域ケア会議への参加予定が中止となったため）
- ・コロナ禍における実習受入に関しては協力者があっての実習なので、その時その時の場面に応じた対応が求められる。
- ・訪問できなくても事業所内で模擬で体験してもらうことで目標達成の効果は少なからずあったのではないかとと思う。

8. コロナの影響が同じように続くと仮定した場合、今年度以降のマッチング方法について

自法人からが良い	55
他法人からが良い	4
その他	17

コロナの影響がある中では、自法人からの受入れが良いと回答する指導者が7割以上だった。



9.8の回答理由について(自法人からが良い) 抜粋

- ・感染対策の共通認識が出来ていることで、感染対策が問題なく出来る。（同様の意見多数）
- ・自法人であれば、同じコロナ感染予防対策をとっているため、中止や調整が必要な場合に折り合いが付きやすい。（同様の意見多数）
- ・コロナ禍の対応において、体調管理のデーターがきちんと把握ができるから。
- ・感染が発覚した場合、他法人の場合だと、実習生自身の接触者が影響してくるため。そうなる、どちらの法人にも迷惑がかかるから。

9.8の回答理由について(他法人からが良い) 抜粋

- ・法人での考えもあると思うが、他の法人からの方が実習を受け入れるケアマネの方も学びがあるのでできれば他法人からの受け入れの方がよいと思う。
- ・自法人だと人数に偏りが出て負担も大きいため。分担をした方がよいと思います。

9.8の回答理由について(その他) 抜粋

- ・十分な感染対策をとっていれば、自他の区別は要らないと思った。(同様の意見複数)
- ・その事業所で感染者が出た場合や市中蔓延などの場合はリモートなどの代替手段の環境整備があれば良いと思う。
- ・インテーク等にはより実体験に近い実習できる様に全く知らない所へ訪問させてもらったほうが良いと思います。
- ・主任介護支援専門員の条件の一つに実習指導があり、本来であれば、自法人からの受け入れが良いが、毎年必ず、自法人から合格する人がいるとは限らないので、自法人の合格者が居ない時は、他法人からの受け入れとするというやり方で良いと思われる。
- ・今回は他法人からの受け入れだったが、新型コロナウイルス感染症の影響は感じなかった。各法人で対策はしているので問題ないと思った。
- ・実習生の基礎資格により、見える視点が違うため、指導側も勉強になった。施設職員の方だと、在宅サービスとのかかわりが少ない為、イメージが伴わない所があると感じました。
- ・何らかの体調不良などの症状がある場合には、きちんと申し出ていただければ、それに合わせた対応をするのみと考えます。